

## 2年間を振り返って／後輩たちへ

第12期 羽佐田 智也

### ◆2年間を振り返って

4年生になってから、サークルのある後輩をメディアでしばしば見かける。彼は、1人黙々と勉強しており、いつまで経っても帰らない。聞くところによると、統計の知識を身につけたいとのことであった。ゼミに所属せず、たった1人で遅くまで統計のテキストに向き合う彼を見ると再認識する。私が、途轍もなく恵まれた環境にいるということ。小野ゼミには、アドバイスをくださる先輩・大学院生がみえる。くだらない話から、真剣な話、勉強の話など様々な側面から高めあえる同期がいる。挑戦心に溢れた後輩たちがいる。そして、指導熱心で、人間的にも本当に尊敬できる小野先生がいらっしゃる。そんな素晴らしい環境に2年間所属できたという幸せを噛みしめつつ、ゼミ生、小野先生、小野先生やゼミ生からなる小野ゼミという環境そのものに、この場を借りて感謝を申し上げたい。本当にありがとうございました。

その反面、自分には、その素晴らしい環境を生かしきれなかったという後悔がある。小野ゼミには、挑戦の機会が無数に存在する。小野ゼミに過去の実績、小野先生のご活躍がなければ、機会すら得られないであろうことも多く、そんな機会を得ることは、小野ゼミ生ならではの特権であると言える。しかし、小野ゼミに在って挑戦に尻込みすることの愚かさに気付けたのは4年生になってからであった。秋学期になってから、KSMSや商学会賞に挑戦したが、今振り返ってみれば、もっと色々挑戦すればよかったという後悔が拭えない。余談だが、挑戦することの重要性に気付けたのは13期諸君のおかげである。ありがとう。

### ◆後輩たちへ～

私は後輩である13期から多くのことを教わった。卒業するにあたり、そんな13期にメッセージを残したいと思う。一言でいうと、「みんなが最高のパフォーマンスをするためにはどうしたらいいか？」を常に考えてほしいということである。チームで活動することが多い小野ゼミでは、チームの活動が捗らず、イライラすることがあるだろう。そんな時、自分たち（あるいはチームの誰か）の能力が低いのだと考えるのではなく、何らかの理由で、自分たち本来の力が発揮できていないのではないかと是非考えてみてほしい。チーム内の人間関係が悪いのかもしれない。グル学という環境が悪いのかもしれない。息抜きが足りないのかもしれない。つまり、チームメンバーのパフォーマンスを低下させている何らかの条件があるのではないかとこの視点を持ってほしいのである。そして、それらの条件を改善するように周囲に働きかけ、行動してほしい。何かを変えることはできるだろう。これは、チームのリーダーのみならず、全員が意識してほしい。14期を迎えた来期の小野ゼミが、今以上に素晴らしいゼミになることを願ってやまない。